

2025年12月7日(日) 第二礼拝「聖霊のバプテスマを受けなさい」使徒の働き1章3~8節

イエス様が十字架につけられ、葬られ、三日目によみがえられました。その後、四十日間、イエス様は、ご自分がよみがえられたことを多くの人に証されました。イエス様のメッセージの最も重要なテーマは、神の国についてでした。イエス様は昇天される前に、弟子たちに「父の約束を待ちなさい。」と言われました。その父の約束とは、聖霊のバプテスマです。

第一番目、神様との連合です。神様の靈は聖霊です。聖霊のバプテスマとは、救われた人の靈が聖霊と一つになることです(1コリント6:17)。聖霊は生かす靈ですが、私たち被造物は生きる靈です。私たちのうちで生かす靈と生きる靈が一つになり、二つの靈による連合生活を送っているのです。また、私たちは聖霊によってイエス様のご人格に変えられていきます。聖霊は力と愛と慎みの靈です。聖霊が来られると、恐れが無くなります。聖霊は、私たちを愛の人、憐れ深い人、忍耐強い人、赦す人へとえてくださいます。御靈の実である愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔軟、自制は私たちのものとなります。聖霊と親密な関係となると、人を赦し、愛す時、私たちの心に喜びと感謝が溢れます。

第二番目、力を受けます。聖霊の力はダイナマイトの力であり、福音を宣べ伝えるための力です。私たちのうちには、聖霊の人格が動き、外には福音を宣べ伝える力が与えられます。弟子たちはイスラエルの国の再興を考えていましたが、イエス様は「いつとか、どんなときとか…あなたがたは知らないても良いのです。…父がご自分の権威をもってお定めになっています。」と言われました(本文7節)。再臨は父の権限で決まります。それが神の国の完成の時です。「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」(本文8節) 聖霊のバプテスマによって、主の証人となる力が与えられます。

第三番目、一人の聖霊のバプテスマで国が変わります。イギリスのウェールズリバイバルは、エヴァン・ロバーツ氏から始まりました。炭鉱で働いていた彼は、ある日、聖霊のバプテスマを受け、その後十年間、その地に聖霊が臨むように祈り続けました。炭鉱で働くのは、お酒を飲み、賭博をするような人たちでした。エヴァン氏はある日、幻を見て、草原に火がついて広がり、「この地のリバイバルの炎だ。十万人が救われる。」という声を聞きました。また、その炎がヨーロッパ、アジア、アフリカまで広がると示されました。その体験を十七人の教会員の前で語り、聖霊の火を受けて、この地がリバイバルすることを伝えました。その時、聖霊の火が彼らの上に下りました。そこから聖霊の火は広がり、五ヶ月間で十万人が救われました。人々は、リバイバルを妨げる頑なな心を悔い改め、主に服従するように祈りました。裁判官が裁判中に祈ると、被告人が泣きながら悔い改めました。刑務所にいた犯罪者にも聖霊が臨み、全員悔い改め、刑務所が空になりました。ヨーロッパ、アジアにも聖霊の火が広がり、平壌リバイバルもその一つでした。一人の人が聖霊を受けたことで、世界各地に聖霊の火が広がり、多くの人が救われました。主には不可能がありません。アーメン！